



## 「オールリソース宣言」発出

概要	市のさらなる廃棄物の減量・資源化を促進し、市民啓発などにも活用するため、これまでの取り組みを総括し、今後の取り組みの基本理念として、別紙の宣言を発出します。
目的	令和3年度の市内のごみ総排出量は33,500トンで、家庭系ごみが約86パーセント、事業系ごみが約14パーセントとなっています。平成28年度と比較すると、ごみ総排出量は減少していますが、国が定める目標値は、平成24年度（総排出量34,819トン）比で約12パーセントの削減（総排出量約30,641トン）です。そのため、目標値の達成のためには、あと約2,900トンの削減が必要です。
内容、セールスポイント、前回との違いなど	市では、これまでも目標を早期に達成できるよう、さまざまな方策に取り組んできましたが、今後も目標達成に向けてサーキュラー・エコノミーを一層推進するために、「全てのものの価値を肯定し、不要なものから資源を取り分けるのではなく、全てのものは大切な資源であって、公衆衛生上の理由などやむを得ない場合に限り焼却処分を行う」とするパラダイムシフト（ものごとの見方や考え方における発想の転換）を実践します。  「もの」を大切に、「価値」を肯定することをきっかけに、よりポジティブ（未来に対し前向き）な社会づくりに貢献していきます。
問い合わせ先	環境経済部 資源対策課 業務係 TEL 046 (252) 7659 FAX 046 (252) 7616



## 「オール・リソース」宣言

私たちは、これまで自分にとっていらぬもの、役に立たぬものを「ごみ」と表現し、「ごみ」は「廃棄」するもの、という考えにとらわれてきました。

いま、地球上に廃棄されるごみは増え、温室効果ガスの発生源となり、地球の資源は枯渇を始めています。また、「ごみ」という言葉は「役に立たぬ」とする使い方から、価値のない、無用なものの象徴となっています。

人類の存続と安らぎが危ぶまれている今、持続可能な環境と社会の構築に向けて意識や行動の変革が求められています。

私たちは、これまでの「ごみ」という概念を捨ててあらゆるものの価値を肯定し、過去や未来、地球からの預かりものとして活かすことを選択し、全てのものは貴重な資源であり、大切に扱い、使い続け、用を済めたら大切に還すことを当然の行動として、実践することを宣言します。

浪費しない、無駄にしない。

～ No Waste

不用なものなんて存在しない。

～ No Garbage

みんな大切な価値がある。

～ ALL RESOURCE

令和5年3月27日

座間市長 佐藤 弥斗